

# 行政視察報告書

行政視察の結果について、下記のとおり報告します。

令和7年12月12日


光市議会議長 森戸 芳史 様

議員 早稲田 真弓

## 記

- 1 調査年月日 令和7年11月13日（木） 10:00～12:00
- 2 調査市等 山陽小野田市 A スクエア
- 3 調査結果 別紙のとおり

## 調査結果

日 時	令和 7 年 11 月 13 日（木）10：00～12：00	
調査市等	山陽小野田市 A スクエア	
調査事項	山陽小野田市 LABV プロジェクトについて	
説 明 者	企画部 和西部長 他数名	

＜LABV…（Local Asset Backed Vehicle(官民協働開発事業体)の略で官民連携手法の 1 つ＞

【特徴 1】：複数の公有地等を対象とし、公共施設と民間収益施設も組み合わせた開発やマネジメントを行う。

【特徴 2】自治体が公有地を現物出資し、民間事業者が資金出資して作った事業体が、公共施設と民間収益施設を複合的に整備する。

### ＜山陽小野田市 LABV プロジェクトを始めるまでの背景＞

- 老朽化した公共施設への適切な対応が必要であるが、市の財政状況から費用の捻出は難しい。
- 地域の賑わいを再抄出するため、民間事業者の技術・ノウハウを活用したい。
- 時期を同じくして、山口銀行も店舗の老朽化や地域との連携強化に課題を感じていた。
- 地元経済界も、昔の賑わいが失われてしまったエリアの復活を切望していた。



### ＜LABV のメリットと課題＞

- メリット
  - ①公有資産の提供こそ行うものの出資金等の資金拠出が不要。
  - ②民間事業者における知見・ノウハウの活用により、当該公有資産が持つポテンシャルを最大限引き出す。
  - ③土地に関する支出が不要となるため総事業費が圧縮される。
  - ④官民や民民での新たな連携が創出されるため、さまざまな主体の協働による地域課題の解決に向けた事業推進が可能。
- 課題
  - ①「いつまで」「何を(公共性)」「どのように」を「収益性」を考えながら決めていくことの難しさがある。(時間がかかる)
  - ②官にとっては「決まっていない」プロジェクトに対し、庁内、議会の理解を得るために相応の労力と耐力を要す。
  - ③山陽小野田市では議決権が官：民 1：8 のため意見の衝突が起きる可能性がある。



### <質疑>

Q 1	LABV 方式導入についてパブリックコメントや市民アンケートは行ないましたか。
A 1	エリアのみなさんと数回ワークショップを開催した。導入に関しては全員賛成した。工事説明会などを丁寧に行なった。
Q 2	山口東京理科大学のプロジェクト参画により、まちづくりへの貢献が期待されていますが、現時点での評価はいかがでしょうか。
A 2	大学の一般教養に地域づくりの講座「地域学」を設けている。山陽小野田市ではないかもしれないが、県内就職の流れの効果を期待している。

### <所感>

- ・経済界に詳しい銀行や商工会議所が積極的に関わって実現できた LABV 方式だと感じた。



- ・また大学と連携し、学生寮が同敷地内に存在することで、若者が自然に施設に出入りし、施設の活性化につながっている。また、施設内にハローワークがあり、学生にとっても便利な施設になっている。さらに、市民活動センターも活発に動き、素晴らしいと思う。
- ・施設のセンスが良く都会的なので、人が集まりやすい。

周りはまだ古い建物が多いが、この施設ができたことで、近隣にスーパーや飲食店など民間事業者が次々と出店し、施設の経済効果が表れている。

・最初に話があったが、発端は市長の思いとのこと。そして、担当者が何度も「あいまいさ」を受け入れることを強調しており、何事も新しいことにチャレンジするときは決めつけ過ぎたり、失敗を恐れたりしないことが大事だと感じた。また、市は民間ができないことを行ない、その他は民間に任せることも必要だと言われていた、その通りだと思った。